



横浜市立一本松小学校

3月号

学校だより

横浜市立一本松小学校

校長 高桑 透

令和8年2月27日

『SNSの向こう側にいる“誰か”を想う』

校長 高桑 透

春の気配が少しずつ近づき、子どもたちの表情にも明るさが増してきたように感じます。ミラノ・コルティナオリンピックでは、日本の選手たちが世界の舞台で懸命に挑戦する姿からたくさんの元気をもらいました。一方で、大会の陰ではSNSを中心とした誹謗中傷が大きな問題となりました。日本オリンピック委員会（JOC）によれば、1月18日以降だけで6万件以上の中傷投稿が確認され、けがで出場できなかった選手に「次は辞退してください」といった心ない言葉が寄せられたことも報じられています。こうした状況を受け、JOCは日本とイタリアにスタッフを配置し、24時間体制で監視と削除要請に取り組んでいます。

この出来事は、インターネットとともに育つ子どもたちにとって非常に大切な学びを含んでいます。SNSの向こう側には、一人ひとりの努力や思いがあります。しかし、匿名で発信された心ない言葉が、人を深く傷つけてしまうことがあります。

これは学校生活でも同じです。何気なく口にした言葉が、友だちを励ますこともあれば、反対に、相手を悲しい気持ちにさせてしまうこともあります。

そのため学校では、

- ・人を大切にする言葉づかい
- ・相手の気持ちを考えて行動すること
- ・情報を正しく判断すること



といった情報モラルの育成に継続して取り組んでいます。

しかし、子どもたちの成長を支えるには、学校だけでなく家庭や地域の皆さまの温かいまなざしが欠かせません。大人が丁寧な言葉づかいを心がけ、責任あるSNSの利用を実践することは、子どもたちにとって大切なお手本になります。

事実か分からない情報を拡散しないこと、誰かを傷つける言葉を書き込まないこと、悩みに耳を傾けること——。こうした日々の小さな積み重ねが、子どもたちを守る大きな力になります。

今回のオリンピックを通して、私たちはあらためて「言葉をどう使うか」という課題と向き合うことになりました。子どもたちには、言葉には温かい力があること、その思いやりが社会をつくることを、これからも丁寧に伝えていきたいと思えます。

令和7年度も、いよいよ締めくくりの時期となりました。この一年、子どもたちを温かく見守り、励まし、支えてくださいましたことに、心より感謝申し上げます。

子どもたちが将来、互いを尊重し合い、思いやりをもって社会をつくっていきけるよう、学校としてもその土台となる教育をこれからも大切にしていきたいと思います。